

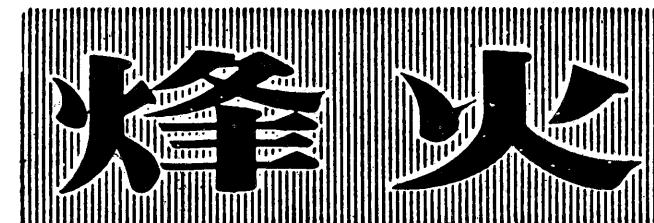
帝国主義の侵略反革命を粉砕し全世界の帝国主義を打倒せよ！／スター・リン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立—共産主義を組織する世界唯一党の国際階級闘争の最前線に加盟せよ！



89年闘争基調

◆三里塚反対同盟のアピールP2~9

1989年
1月1日
第402号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄西2-8-19
明豊ビル401号 大労協内
TEL.(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

(フィリピン・87-5)

SOLIDARITY WITH THE
PEOPLES OF ASIA AND AFRICA
International Solidarity Movement
国際主義を復権せよ

●1989

英雄的な幾多のたたかいと厳しい試練にいろどられた三十年の歳月は、わが国のあらゆる政治党派をふるいにかけ、日和見主義者たちを容赦なく敵の陣営に追い払い、真に革命的な部分を鍛えあげ成長させた。われわれはこの三十年の歳月のなかで、「世界革命・プロレタリア独裁・暴力革命」という共産主義者同盟の立党的旗を守りぬき、そしてこの原則宣言を、現代世界を根底から変革するための武器（綱領・組織

運動の再建を

支援放棄するソ中

われわれが直面する課題

一九五八年一二月に、日本共産党と訣別して共産主義者同盟が結成されてからちょうど三十一年の月日が流れた。そのかん世界の共産主義運動においては、歴史に残るさまざまな出来事が

あった。国際共産主義運動の大分裂といわれた中国・ソ連共産党間の論争と闘争があり、中国の文革の開始とその挫折があり、全世界の人民の支援を受けたベトナム革命の勝利があり、また最近ではソ連のペレストロイカをはじめとする「改革」ブームの開始があった。一方、日本においては、六〇年代後半には全共闘・反戦を軸とした巨大な闘争があり、七〇年代には激しい党派闘争・分派闘争があり、そして現在まで続く労働運動・諸民主主義闘争との新しい結合があった。

英雄的な幾多のたたかいと厳しい試練にいろどられた三十年の歳月は、わが国のあらゆる政治党派をふるいにかけ、日和見主義者たちを容赦なく敵の陣営に追い払い、真に革命的な部分を鍛えあげ成長させた。われわれはこの三十年の歳月のなかで、「世界革命・プロレタリア独裁・暴力革命」という共産主義者同盟の立党的旗を守りぬき、そしてこの原則宣言を、現代世界を根底から変革するための武器（綱領・組織

全国のたたかう労働者・学生諸君！共産主義者同盟（全国委員会）から八九年の闘争基調を送り届ける。すべての労働者・学生がこの基調のもとに結集し、新しい年をわが国の階級闘争と革命運動の大きな飛躍の年とすべく、さらなる奮闘を決意することを強く訴える。

序章

★89年闘争基調

いま帝国主義とブルジョアジーの支配が世界に存続することによって生まれる貧困や悲惨や荒廃は、地球上のあらゆる場所でますます拡大し、深刻化している。ひと握りの帝国主義国が世界の富を略奪し、独占することによって、第三世界では絶対的貧困が拡大し、少なくない国で飢餓が慢性化している。帝国主義国でも上層の豊かさとひきかえに、新しい貧困と矛盾が蓄積されている。今日の時代の貧困と社会的矛盾の主要な原因是帝国主義とブルジョアジーの支配にある。そして彼らはこの支配を維持するために、被抑圧人民のあらゆる反抗と闘争をおしつぶすための血なまぐさい弾圧を全世界で日々くり広げているのである。帝国主義とブルジョアジーの支配を打倒して一切の搾取制度を地球上から廃絶し、世界的なプロレタリア独裁権力のもとで生産と分配と消費を地球的規模で再組織することによって、問題はじめて解決の端緒につくことができる。今日の国際的国内的矛盾を真に解決し、全世界の被抑圧人民をあらゆる貧困から解放できるものは、帝国主義とブルジョアジーではなく、共産主義とプロレタリアート以外にはないことがあります

鮮明になってきている。

しかし、われわれの眼前で進行している現実は、共産主義運動が劣勢に立たされているという事態である。帝国主義が全世界で、思想と裏

力の両面から共産主義に対する攻勢を強化しているなかで、ソ連・中国共産党をはじめとする国際共産主義運動の側は大幅に後退し、資本主義への屈伏をますます深めている。

今日、帝国主義は相互の利害対立を深めながらも、(1)ソ連・中国の封じこめ、(2)帝国主義共同市場の防衛、(3)反帝民族解放・社会主義革命の制圧、という点では一致し、この共通戦略を実行するための反革命同盟をますます強めている。

米帝を中心とする帝国主義陣営は、ソ連・中国を帝国主義にとって無力な存在に変え、彼らの国際的影響力の低下をはかり、また他方で帝国主義にとって真の脅威である第三世界の反帝民族解放・社会主義革命の制圧に力を集中しようととしている。米帝のL·I·W(低強度戦争)戦略に示されるように、第三世界の革命運動は、帝国主義の全体重をかけた攻撃に包囲され続けている。

こうした帝国主義の動向を前にしてソ連・中国共産党の指導部は、国際共産主義運動の再建をもつて帝国主義に対峙し、第三世界の革命運動の防衛のために全力をあげるという責務を放棄し、「对外開放」や「改革」を通じた一国経済の立て直しに腐心するという堕落した姿をさらけだしている。「对外開放」とは、資本主義との貿易の拡大であり、資本主義からの資本・技術の導入であり、政治的には帝国主義との平和共存である。「改革」とは生産における資本主義的手法の導入であり、経済的非効率・停滞を克服するための社会の諸制度や慣習の見直しと変更を意味している。

革命で権力を握った一国の共産党が、革命を防衛し発展させていくために、その物質力としてはもちろんありうる。それは革命の発展にとって何らマイナスではない。しかし現在、ソ連・中国・東欧などの国々においておこなわれている「对外開放」や「改革」の大半は、先進資本主義諸国に比べて立ち遅れた自国の経済を立て直すための手段として位置づけられており、自国の階級闘争と世界の革命運動を前進させるための物質力をつくりだす革命の事業として、一国経済の再建をはかるという発想や意識性は皆無に等しい。ソ連・中国の現在の政策は資本主義への思想的屈伏の表現である。それは自国のプロレタリアートの階級意識を希薄にさせ、国際的には社会主義の権威を大きく低下させる役割をはたしている。

ソ連・中国の資本主義への屈伏が進行するなかで、全世界のプロレタリアート人民は大きな困難を強いられている。自己生産力の拡大とそのための平和的国際環境づくりを何よりも最優

先せるソ連・中国の共産党にとって、全世界の人民のたたかいは世界の安定を脅かす不安定要素となり、彼らには全世界の階級闘争、とりわけ第三世界の反帝民族解放闘争に対する援助は、ほとんど何の意味ももないようになつた。ソ連・中国の反帝民族解放闘争に対する援助は(それがヒモつきであれ何であれ)大幅に縮小されるようになり、国際帝国主義による第三世界の人民への抑圧と弾圧は彼らによってむしろ容認されるようになつていて。

ソ連・中国共産党によるプロレタリア国際主義の完全な放棄が始まつた。共産主義運動の再建をめざす全世界の共産主義者は、ソ連・中国によって投げ捨てられ、踏みにじられたプロレ

タリア国際主義の復権をたたかいたるために全力をあげなければならない。それは現代の共産主義者に課せられたもっとも重要な任務である。これをめざして各国の共産主義者は共同の努力を開始せねばならない。第一に、新しいインターナショナル(世界党)を建設することである。この実践の総合である。第二に、新しいインターナショナル(世界党)を建設することである。この実践の総合である。第三に、以上につけ加えて、自国帝国主義による侵略反革命と他民族抑圧、排外主義攻撃とのたたかいを組織するという任務を、帝国主義国(プロレタリアート)は引き受けることである。帝国主義国(プロレタリアート)にとって、自国帝国主義との闘争を欠落させたままでは国際主義はまったくの空話となる。

国際共産主義

第三世界人民への

何が階級闘争を再生させるか

帝国主義国内での革命運動を前進させていくという任務にとっても、国際主義を自国の階級闘争のなかに復権させていくことは緊要の課題である。それは帝国主義国(プロレタリアート)をめざさせ、帝国主義国内階級闘争を再生させていくために不可欠の課題である。

今日わが日本帝国主義は、「世界に貢献する日本」の旗を掲げて、全世界で新植民地主義的侵出と支配を強化し、また米帝を補完しつつ反帝民族解放闘争への反革命に直接乗りだそうとしている。国内において彼らは、労働運動の帝国主義的再編を進め、天皇制を軸にした排外主



い。『愛國の党』『民族の党』を自称する政党が、いま世界屈指の帝国主義に成長し、全世界に乗りだそうとする日本帝国主義への正面戦を提起できるはずもないし、また日帝を「第一の敵」ととらえて決起する第三世界革命運動への連帶を提起しうるはずもないのである。

戦後の階級闘争において、主流を占めてきた社共は、いまや完全にプロレタリアートにじつて阻害物に転化した。プロレタリア国際主義を自己の綱領の柱にすえ、プロレタリア階級につかりと根をはった、社共に代わる革命的前衛党の建設を真正面から問題にせねばならないときがやってきた。

すべての共産主義者に問われているこの課題から見ると、新左翼諸党派の代表的な二つの潮流、急進民主主義党派と右翼日和見主義党派の

実を知るばかりでなく、これに対する第三世界プロレタリアート人民の英雄的なたたかいを知り、彼らに触発され、彼らに学ぶことによつて自己を国際プロレタリアートの一員として自覺し始めるのである。

それでは、国際主義のもとへ労働者人民をたゆます組織し、わが国の階級の現状を変革し、階級闘争を再生していくという任務をいつたい誰がもつともよく担うことができるか。

社会党か。否である。彼らは戦闘的社民としての一時代にみずから完全にピリオドを打ち、現在、第二保守政党への道を真っさかさまに転落していっている。時いたれば彼らが、戦前の社会大衆党などのように、公然たる翼賛政党に転化することは必至である。

では日本共産党はどうか。やはり否である。

義的国民統合を進め、軍備を強化していく上でも侵略反革命戦争に出動ができる体制を着々と準備している。このような時代、国際主義の精神でプロレタリアートを教育し、労働運動であらゆる労働者人民の政治的経済的な闘争と反抗の中に国際主義をもちこみ、それらの闘争と反抗的質的な転換をはかっていくことは、わが国の共産主義者の第一級の任務である。なぜなら国際主義と結びつくことができなければ、どのような戦闘的な闘争といえども帝国主義によって組織される排外主義にうち勝つことはできないからであり、また自然発生する労働者入民の政治的経済的要求と運動は、国際主義と結びつくことができなければ、排外主義の側に追いやられていくばかりである。プロレタリア国際主義にもとづく国際連帯闘争、とりわけ第三世界革命への支援・連帯のたたかいは、帝国主義本国プロレタリアートの階級形成にとって重要な意義をもっている。このたたかいでを通じて帝国主義本国プロレタリアートは、

資本主義に屈服するソ共

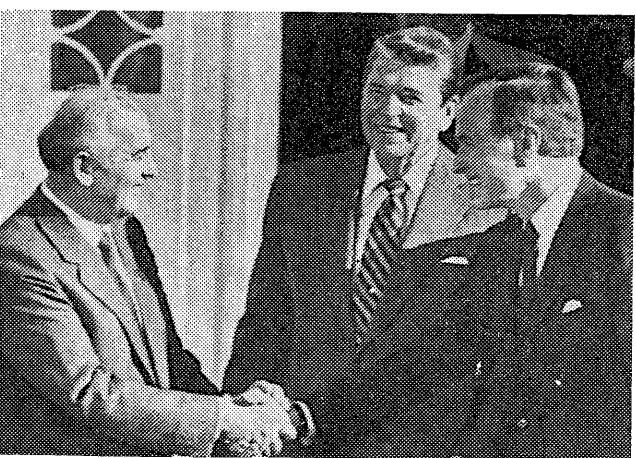
ソ連・ニルバチヨフ体制のもとで進められてきた改革路線＝ペレストロイカは四年目に入り、改革のための理念の転換と人事固めとしての第一段階を終え、それはゴルバチヨフいうところの「危機的段階」＝本格的履行の時期を迎えた。

必死の努力が続けられたペレストロイカ諸政策も、ゴルバチヨフ自身が昨八八年のソ連共産党第一回全国協議会での報告で、「われわれは過ぎ去った時期のゆがみや停滞の深刻さ、重大さを過少評価したのだ。経済のさまざまな部面における荒廃状態は、はじめに思ったよりもっと大きかった」とのべたように、思うような成果をあげられず、ソ連国家統計委員会の発表によつても、八七、八八年ともにソ連の経済実績はペレストロイカの成果を肯定的に評価するにはほど遠いものである。

会主義の前進を実現するものではない。とりわけソ連においては、現在までの否定的現状をつくりだしてきた根拠の歴史的根深さとその規模からして、中国の改革路線に比べても部分的成果をあげることさえ困難で、逆にマルクス・レーニン主義からの根本的転落を生ぜしめる危険性をはらんでいる。すでにその第一歩ともいえる変節が、ソ連において始まっている。「プロレタリア階級の利益と全人類の利益の相互関係で、現在においては全人類的価値が優先する」という結論に達した。ここに新しい政治思考の核心がある」（ソ連共産党第一九回全国協議会）というゴルバチョフのいく度もの発言や、「マルクス主義者はかつて、階級的圧迫の絶滅は全人類的性格の諸問題の解決に先立つものであると考えていたが、現在では全人類的ストラ

全人類的価値優先論のペテン

現在ソ連で進められている「ゴルバチョフ路線」は、中国など他の社会主義諸国で展開されていく改革路線と基本的に同一のものである。すなはち、国内的には総生産高第一主義にもとづいた、「労働力や原材料のむだ使い、効率無視ゆえの物不足、悪平等主義の貨金体系」などを内容とする「危機寸前の経済」の改革、それを促進するための政治（体制）改革、あるいは政治の民主化の推進、対外的には改革のための平和的環境づくりを最優先しようとする路線である。ソ連・中国の改革路線は、部分的な改善の成果をもたらすことができるかもしれないが、それらは直面する諸問題の抜本的解決を通じた社



ブッシュ(右)と握手するゴルバチョフ(88年12月)

現状は、あまりに無残であるといわなければならぬ。一方の部分はプロレタリア階級に依拠することを拒絶し、他方の部分はプロレタリアートを革命的階級に高めあげていくことを拒絶している。彼らはともに社共の反対派にとどまり続けるだろう。このような新左翼諸党派の現状を批判的にとらえ、眞の革命的前衛党の建設をなしとげようとする全国の共産主義者・諸グループ・党派の諸君とともに、われわれは急進民主主義・右翼日和見主義とは異なる党建設の大道を切り開いていかねばならない。

る運命にある。またやがて訪れる天皇の死とともに近年ではない排外主義の嵐がプロレタリアートを襲うことになる。他方、目を海の外に転じてみれば、帝国主義に対するたたかいは全世界で日々新しく生まれ、成長し続けており、本年もまた世界の人民を釘づけにするような偉大なたたかいが誕生するだらう。

全世界の人民のたたかいに応え、プロレタリア國際主義の復権、階級的労働運動の発展、と共に代わる前衛党的建設という、われわれが直面するこの三つの焦眉の事業のために全国の先進的労働者・学生は、わが共産主義者同盟（全國委員会）とともに八九年をたたかいぬこう。

以下の章でわれわれは、①ソ連批判、②日本の党派批判を提起し、最後に③八九年の任務について提起したい。

闘争での成果は期待すべきではない。これは新しいが原則的に重要なことがらである」という「平和と社会主義の諸問題」誌各党代表者会議でのソ連共産党代表発言にみられる「新しい政治思考」と称せられる考え方だが、ソ連共産党で主流イデオロギーとなっている。それはレーニン主義とは根本的に対立する思想である。このような問題の立て方からは、帝国主義への屈伏路線にしか行きつかないことは明らかである。われわれはソ連共産党に対して激しい批判を組織しなければならない。

なさねばならない批判の第一は、世界のマルクス・レーニン主義者は、とりわけすでに権力を掌握した国の共産主義者の党は、何よりもまずプロレタリア国际主義の見地に立ち、他国の中級闘争、革命運動に実際上の連帯・援助をし続けねばならないという点についてである。ソ連共産党は自国の生産力の向上のために、帝国主義者たちとの緊張関係を望まず、そのため先ほどの「階級の利益よりも全人類の利益が優先する」なる観点から、第三世界での革命運動を支援するどころか、その前進を抑止することにさえ加担し始めている。プロレタリアートの国際的連帯と相互援助を組織し促進することは、全世界の共産主義者の最低限の義務である。どのような国のが共産党といえどもこの義務にそむくことは許されない。現在のソ連が進んでいるのは、これに逆行する反國際主義の道である。プロレタリア国际主義は同時に、社会主義建設を前進させる前提条件になることを踏まれば、ソ連共産党はその中心的任務を国際的な革命運動の前進にいかに寄与しうるのかにこそ定め、自國生産力の拡大はそれとの関係において設定すべきなのである。

しかし、世界革命の勝利までソ連や中国は自國生産力の停滞の問題について何も対処しなくてよいということではない。そのとき必要なのは、社会主義国のが共産党は自己プロレタリアート人民の生産力拡大にむけたエネルギーの組織化を、社会主義的方法をもっておこなわねばならないということである。資本主義的・ブルジョア的方法に頼ることは、よつて立つ社会の基盤を崩壊させる誤りである。

キューバ共産党の原則的態度

ソ連共産党に対する批判の第二は、社会主義建設と人民指導との関連の問題についてである。あるいはプロレタリア権力を樹立した国における階級指導の問題といった方がより適切かもしれない。「社会主義における労働意欲の低下」が問題になっている。ソ連共産党指導



インフレ、格差拡大が進む中国(北京の自由市場)

の原則的態度

ソ連共産党に対する批判の第三は、彼らが一貫して社会主義を経済建設の方法、それも一国における経済建設の方法としてとらえている点についてである。これはスターリンからそれを批判したフルシチョフも含め、現在のゴルバチョフに至るまで変わっていない。フルシチョフは、社会主義による経済建設の成果を見れば全世界はおのずと社会主義に移行するであろう

部はこの問題に対し、ブルジョア個人欲望の充足や、憲法改正案にみられる「全國民の政治参加の保証」などのブルジョア的政治的自由をもって対処しようとしている。しかし、プロレタリア階級の階級的意欲はそのようなことでは引きだえない。ロシア革命勝利直後のソ連人は、きわめて困難な生活状況のもとにおいて驚くべき革命的精力的活動・労働・闘争を継続したし、世界各国の人民もロシアを社会主義の祖国ととらえ、帝国主義の包囲下の革命ロシアの防衛のためのたたかいに決起したことは周知の歴史事実である。こうした歴史からも学びながら問題を立てれば、権力を掌握する国の共产党は、プロレタリアートの歴史的役割・使命、そこから引きだされる真っ赤なプロレタリア国际主義の精神をもって、各国の階級闘争と革命運動に対する国際的連帯活動に自國の人民を動員することを指導の要とすべきなのである。抑圧され、苦闘している他国プロレタリアート人民の解放のために、自分たちがいかに寄与できるのかという観点から自國経済の活性化をはかり、生産力を拡大し、ブルジョアジーに榨取され酷使され、知力も体力もすべてしばりとられている資本主義国の労働者よりも、より主体的・精力的・効率的に労働し闘争することのできる条件をもつて自國の労働者の自發的エネルギーを、共産主義者・党員を先頭にして組織すべきなのである。それが社会主義的な方法でのプロレタリアートの意欲の引き出し方の基本である。

この点で注目すべき実践が、現在の世界にはいわけではない。キューバのアンゴラへの国際義勇軍の派遣は、カストロ・キューバ共産党第一書記が主張しているようにプロレタリア国际主義の実践といえるだろう。彼は次のようにいつている。「米国の多くの人は、この小さな国キューバが外貨も強力な経済も富もないのに、どうして（アンゴラへのキューバ軍の派遣ができるのか理解に苦しむだろうが、われわれは金の面では貧しいが、高い自覚、強い国际主義

の氣概がある」「わが国は大国ではない。アンゴラに何の経済的利害ももっていない。したがつてわれわれの援助は完全に誠実な私心のないものだ。それは連帯、国际主義的精神から生まれたものだ」（八八年アメリカNBC記者との会見）。「帝国主義者がいまソ連で進められてる自己批判をいいことに、社会主義がしてしまったすべての権威を失させ、信用を失墜させ、社会科学、特質を探用しない」。「われわれは帝国主義と対決してきただけではなく、何十万もの息子たちが国際主義的使命を果たして生き、そこから引きだされる真っ赤なプロレタリア国际主義の精神をもって、各國の階級闘争と革命運動に対する国際的連帯活動に自國の人民を動員することを指導の要とすべきなのである。抑圧され、苦闘している他国プロレタリアート人民の解放のために、自分たちがいかに寄与できるのかという観点から自國経済の活性化をはかり、生産力を拡大し、ブルジョアジーに榨取され酷使され、知力も体力もすべてしばりとされている資本主義国の労働者よりも、より主体的・精力的・効率的に労働し闘争することのできる条件をもつて自國の労働者の自發的エネルギーを、共産主義者・党員を先頭にして組織すべきなのである。それが社会主義的な方法でのプロレタリアートの意欲の引き出し方の基本である。

歴史のそして世界における基本的矛盾はいぜんとして、国内的にも国際的にも根本的にはブルジョアジーとプロレタリアートの階級矛盾にしている。ソ連共産党はこのようなキューバの原則的態度にこそ見習つべきである。

らば、歴史の前進と世界のプロレタリアート人民の究極的幸福は、各國におけるブルジョア権力の打倒、世界におけるプロレタリアート独裁権力の樹立をまざかちとることが出発点となる。それを具体的に確実に達成するために、すでに権力を握った国々の人民に、経済的・物質的問題の解決に関してこれまでの数十年を上回る巨大な寄与をすることができるし、その根本的・抜本的解決と社会主義建設のための物質的条件を短期に用意することができるだろう。

資本主義の有効性を説くノ共

ソ連共産党に対する批判の第三は、彼らが一貫して社会主義を経済建設の方法、それも一国における経済建設の方法としてとらえている点についてである。これはスターリンからそれを批判したフルシチョフも含め、現在のゴルバチョフに至るまで変わっていない。フルシチョフは、社会主義による経済建設の成果を見れば全世界はおのずと社会主義に移行するであろう

と考えたし、逆にゴルバチョフは社会主義は経済建設に関してはあまり有効な方法ではないと総括しているのである。

最近のソ連共产党はとりわけ「發展途上国」における「資本主義」の有効性をきわめて高く評価しており、ある論者は「われわれが捨てようとしている現在のソ連型社会主義の経済モデルをなぜ第三世界に推薦できようか」（「労働者階級と現在世界」八七年三号）といきつているほどである。同じような考え方には、中国の鄧小平の「中国の経験によれば、あなたたちは社会主義をやるなかれとお勧めしたい」（八八年五月モザンビーク大統領との会見）との発言にも見えることができる。

このような考え方からは、自国の経済的困難にもかかわらず第三世界諸国人への連帯戦を組織するキューバ共产党のような態度や実践は生まれえようもないし、帝国主義国内プロレタ

リアートの自國帝国主義打倒のたたかいの重要性、その社会主義建設との関連についても理解できないであろう。理解しえないどころか、資本主義・帝国主義との和解と平和的共存こそ望ましく、その弊害となる一切の闘争に対しても第三世界での闘争、帝国主義国内での闘争を間ねず抑圧することに帰結するのである。

☆ ☆

ソ連・中国社会主義路線の破産がますます明らかになるなかで、これに代わる真の共产党主義運動をつくりだしていくことが、きわめて重要なになってきている。全世界の共产党者は、ソ連・中国批判を深め共存し、国際共产党主義運動の再建にむけて共同のたたかいを開始していくことを要求されている。

次にわれわれは、わが国の階級闘争の状況をもっとも鋭く反映する党派再編の状況と、主要政治党派・潮流の批判の問題についてふれたい。

わが国の政治党派の現状

戦後階級闘争の基本構造が最終的に崩壊し、これに代わって典型的な帝国主義の政治構造がわが国においても成立しようとする状況のなかで、新しい党派分解と党派再編が進んでいる。あらゆる党派が大きくなれば次のように分解している。

第一は、社会党に代表される部分である。彼らは帝国主義の超過利潤によって育成される帝

国主義社民への道、ブルジョアジーの補完物の道を積極的・自覚的に選択することによって延伸しようとしている。彼らはこのために自己の古くなった綱領を捨てたり、古くなった政策を書きかえることを急いでいる。

第二は、日本共产党に代表される部分である。彼らは、帝国主義国における革命を最終的に放棄し、社会党の右転落のなかで、かつては社民のものであった政治的ポジションを占めることに今後の展望を見出そうとしている。彼らのスローガンは、「戦後民主主義の防衛であり、このもとで形成してきた生活水準の防衛である。第三は、「社会主義連合」に代表される部分である。彼らは帝国主義の政策がもたらすさまざまなかでもとも力をもつ共労党はその立脚点を「赤と緑の結合」においている。それはマルクス・レーニン主義の放棄を意味する。

第四は、急進民主主義者の潮流である。彼らは、プロレタリア階級に依拠することを放棄し、帝国主義が生み出す人民のさまざまな憤激に依拠し、これを急進化・戦闘化させることを



新宣言を採択した社会党50回大会(86年1月)

◎ 第一保守党に転落する社会党

社会党は戦闘的社民としての過去を精算して、第二保守政党への道を歩み続けている。八六年一月の大会で社会党は、旧来のイデオロギーと政策の全面的見直しをおこない、新しい綱領である「新宣言」を採択した。社会党はこれによつて、①資本主義を「豊かな社会」と肯定し、②日本における階級の存在と階級闘争の必要を実質上否定し、③社会主義を「資本主義の改めないといふ誤った前提に立つものであり、それを拒否し、日帝の侵略反革命強化の現実を認めない」という立場から、日帝に加担する犯罪的役割を果たす。また彼らが規定するところの「日本占領資本主義」なるものとの闘争も、それは資本主義の廃絶をめざすものではなく、資本主義の改良をめざすものであり、社会主義・共産主義は永遠に彼岸化されている。

彼らのこの立場から、「独立・非核・非同盟中立の日本の実現」「日本型ファシズムに反対し民主主義を確立する」「反核国際統一戦線の結成と非核の政府をめざす」などの、共産主義運動とは無縁な、小ブルジョア民主主義者の政治路線が生まれてくるのである。また彼らは依拠すべき階級を労働者階級とせず、市民潮流と同様に国民一般においている。したがって、労働者階級の運動を原則的に指導する立場は彼らには前提的ないが、現在の労

良」「高度な福祉国家」に路線化し、④さらに社会主義のない手を労働者から国民一般に変更した。これで綱領上は、「階級政党」から「国民党」への脱皮が決定づけられた。本年、社会党的強力な支持基盤であった総評が解散すれば、この「国民党」への脱皮という動向にささらに拍車がかかるだろう。

綱領改定とともに社会党は、公明党・民社党・自民党の一部との「中道連合政権」を展望して、連合のネットとになっている安保・自衛隊・ヨア階級支配の露骨な補完政党、侵略反革命進の排外主義政党、そしてプロレタリアートの階級闘争に対する反革命政党の道を急速に転落してしまっている。この動向に対抗すべき党内「左派」はすでに瓦解した。党内に残存する一部良心的社會党員に対して、社会党の右転落がもはや歎止めのきかないものであることを明らかにし、右翼指導部と訣別して眞の階級政党をつくりあげていくべきことを、われわれは訴えていかねばならない。

◎ 社民のあとがまをねらう曰共

社会党が右転落をとげ、ブルジョアジーにまますます接近・融合していくなかで、日共は反政府派としての相対的位置を高めている。彼ら自身もまた「唯一の野党」を自称している。しかし、その党的内実は、決して階級的なものではなく、プロレタリアートの階級的利益を代表するものではない。彼らの綱領と政治路線は、対米従属論にもとづいて日本を帝国主義と規定することを拒否し、日帝の侵略反革命強化の現実を認めないと、いまだ日帝が国際帝国主義として登場しようとする時代にあっては、まったくプロレタリアートの役に立たないばかりか、日帝に加担する犯罪的役割を果たす。また彼らが規定するところの「日本占領資本主義」なるものとの闘争も、それは資本主義の廃絶をめざすものではなく、資本主義の改良をめざすものであり、社会主義・共産主義は永遠に彼岸化されている。

勧運動の局面のなかでは、彼らは原則性・階級性を堅持して健闘しているかに見える。しかしそれは、社会党・総評の右転落があまりにひどすぎることが主要な原因であって、決して彼らの内容上の優秀さに起因するものではない。総評の誤りを主要に「社会党一党支持のおしつけ」の点で批判し、その他については基本的に容認の態度をとり、総評の戦闘的経済主義に対するむしろ右から批判してきた（総評批判のなかで出された彼らの教師聖職論、国民に支持されないスト白瀆論などはその典型）ことにも示されるように、彼らは総評運動の破産を階級的に総括し、これに代わる新しい時代の労働運動を準備する内容をもつてはいない。とくに決定的な弱点は、「民族の党」を公言する彼らには、日帝足下の労働者を国際主義の精神で教育し、武装していく（国際主義プロレタリアートの形成）という立場が全面的に欠落しているといふ点にある。彼らの指導する労働運動は、經濟主義の深みにはまって最終的には破産した総評労働運動の限界を決してこえるものにはならない。

解説　社会主義連合

評労働運動の限界を決してこえるものにはなら
ない。

勧運動の局面のなかでは、彼らは原則性・階級性を堅持して健闘しているかに見える。しかし、それは、社会党・総評の右転落があまりにひどすぎることが主要な原因であって、決して彼らの内容上の優秀さに起因するものではない。総評の誤りを主要に「社会党一党支持のおしつけ」の点で批判し、その他については基本的に容認の態度をとり、総評の戦闘的経済主義に対するはむろ右から批判してきた（総評批判のなかで出された彼らの教師聖職論 国民に支持されないスト白瀟論などはその典型）ことにも示されるように、彼らは総評運動の破産を階級的に総括し、これに代わる新しい時代の労働運動を準備する内容をもつてはいない。とくに決定的な弱点は、「民族の党」を公言する彼らに、日帝足下の労働者を国際主義の精神で教育し、武装していく（国際主義プロレタリアートの形成）という立場が全面的に欠落しているといふ点にある。彼らの指導する労働運動は、経営主義の架空こよまつて最終的には破壊した總

國際主義にそむく反スタ主義

「社会主義連合」の主張と運動は明確に反プロレタリア的なものであり、それは体制内改良主義のものとプロレタリアート人民を引きこもつとする犯罪的役割をはたしている。

レタリア措定の喪失にもとづく誤りである。彼らにとって、労働者階級は社会的多数者以上を意味しない。労働組合運動は生協運動や地域市民運動と同様のものとされ、労働者の政治闘争も市民主義政治闘争の一翼以上の位置は与えられない。

帝国主義内の労働者を階級形成していくために不可欠な国際主義・国際連帯の問題についてつけ加えれば、彼らのそれは「戦争への巻きこまね又対一」という立場からする「侵略又対・国

「社会主義連合」を呼びかけた諸党派は、昨年初頭いらい、鳴りもの入りで相談会をおこなつてきただが結局「社会主義連合」結成の夢は実らず、とりあえず「社会主義懇談会」として出発することになった。ここにも彼らの階級闘争における無責任性と、一貫して第一戦線を構成してきた彼らの本性があらわれている。彼らは一度たりとも真剣に日本帝王国義とたたかたことはなかつたし、前衛党を建設しようとしたこともなかつた。

われ、その急進民主主義路線＝テロリズム・戦闘団主義をますます純化していっている。彼らは、帝国主義のさまざまな反動攻撃に対する直接的反撃を呼びかけ、それが人間（決してプロレタリアートではなく）としての自己実現の方針であると主張し、「帝国主義との死闘」のかに帝国主義打倒の展望があるとしている。

彼らの決定的誤りは、あるがままのプロレタリアートを美化する立場への反発から、プロレタリアートに依拠することを路線上明確にできず、これを放棄している点にある。プロレタリアートを革命的階級として形成し、その他の被抑圧人民諸階層をこのまわりに結集させ、これを通じてわが国の階級闘争の現状を根本的に変

「社会主義連合」の主張と運動は明確に反プロレタリア的なものであり、それは体制内改良主義のもとにプロレタリアート人民を引きこもつとする犯罪的役割をはたしている。

●――――――――――――――――――――――

「社会主義連合」であり、排外主義との対決の視点も、第三世界革命運動との結合の視点もまったく欠落させたものである。

世界革命への「裏切り」を批判する思想であり、新左翼運動を出発させるバネになつたといふ意義をもつてゐたが、今日ではそれは世界の革命運動をすべてスターリン主義の影響下にあるものとする誤った世界觀に純化し、第三世界革命運動とわが国の労働者人民との国際連帯を阻害するものになつてゐる。血債の思想はこの反スターリン主義のもつ一面性と誤りを補完する位置をもつて主張された。すなわち反スターリン主義的世界觀がそのままで純化していくば、世界の革命

八九年のわれわれの任務

3

戦後過渡期世界に代わる現代過渡期世界の本格的開始は、国際共産主義運動の新たな前進を不可避のものとしている。われわれ日本の共産主義者は、この国際共産主義運動の前進といふ重大な任務を断固として担いぬかなければならぬ。この任務と結合することぬきに、日本革命勝利の大道も切り開くことはできない。われわれの八九年における最大の課題は、現代過渡期世界の本格的開始のなかで生み出され

国際主義の問題についてなどは、従前の国際主義の柱は反スターリン主義と血債の思想である。反フラン西義はこの二つの二重フーリノによる

にとり囲まれ、情勢を革命的に切り開くプロレタリアートの眞の前衛党の登場が待望される。社会党の右転落、日本共産党的小ブル的純化という現実をみすえ、社共にかわるレーニン主義前衛党の建設を、八九年のもつとも重要な任務にしてつらつらはやうじゆうしていかねばならぬ。

離じて急進民主主義諸派は、「アーチャルアーチ」の組織化という革命の事業からますます遠く離れ、人民の自然発生的憤激に依拠し、「帝国主義との死闘」という、どのような未来の展望をも示すことのない絶望の戦術の袋小路にますます深く入りこんでいる。

義と血債の思想は、現代のプロレタリア國際主義の内実たりえず、それは曰帝本国プロレタリアートを第三世界革命運動への實際的連帶闘争に組織し、彼らを革命の現実から学ばせ、プロレタリアートの國際的結合を促進するというたたかいで背をむけるものである。

分的にせよ氣づいた急進民主主義者が、最悪の転落を回避しようとして提起したものが、抑圧民族としての自己批判、自国帝国主義＝日帝打倒を内容とする血債の思想なのであった。しかしそれは、帝国主義本国人民は抑圧民族の一員であるという自己認識の契機を与える以上の積極的役割をはたすものではなかつた。反スタ主

世界革命への「裏切り」を批判する思想であり、新左翼運動を出発させるバネになつたといふ意義をもつてゐたが、今日ではそれは世界の革命運動をすべてスターリン主義の影響下にあらるものとする誤った世界観に純化し、第三世界革命運動とわが国の労働者人民との国際連帯を阻害するものになつてゐる。血債の思想はこの反スタ主義のもつ一面性と誤りを補完する位置をもつて主張された。すなわち反スタ主義的世界觀がそのままで純化していくば、世界の革命運動への連帯ではなく敵対につながり、帝国主義排外主義への屈伏につながるという事態に部

任務について提起する。

過渡期世界実践綱領の獲得を

現代過渡期世界は、一国社会主義路線の破産のなかから、世界的規模でそれに代わる新しい共産主義運動が生み出されねばならない一時代である。またそれを担う国際主義プロレアリアートが形成されるべき一時代である。新しい共産主義運動は、一国社会主義路線の総括的批判の上に展開される新しい国際連帯と国際論争である。

力を握った社会主義国家の、革命途上の国々のあるいはまた現下のわれわれのようにいまだ革命の準備段階にある國の共産主義運動をつらぬいて、自國革命を世界革命へと展望づける共通の基準を鮮明にするための一時代の階級運動である。この階級運動は、過渡期世界共産主義運動の実践綱領へと結実させられなければならぬ。」「過渡期世界実践綱領」は、全世界の共産主義者が一国社会主義階級についたんの破壊を

許した世界革命の展望、社会主義勝利の展望を復権し、そのもとに当面する各国の革命の綱領を規定するものとならなければならない。過渡期世界の実践綱領の獲得にむけて、われわれは次の事業を前進させていかなければならない。

第一に、共産主義の低い段階＝社会主義の勝利を、社会主義の支配する世界＝社会主義世界の実現ととらえるマルクス・レーニン主義の原則的見地を復権することである。

一国社会主義路線は、社会主義の勝利は一国

で可能であるとするばかりか、共産主義の勝利すら一国で可能であるとすることによって、マルクス・レーニン主義を裏切った。しかし社会主義の勝利はまだ実現しないまま

る。社会主義が支配する世界を、われわれは社会主義世界と規定する。社会主義世界は、資本主義を物質的根柢にして形成される共産主義社会への過渡であり、いまだ資本主義の母班をもつ歴史段階の世界である。それはプロレタリア独裁の世界支配を武器として創出しうる世界である。そして共産主義の高い段階＝共産主義世界は、この社会主義世界を物質的条件にしてのみ、その胎内からのみ形成される。そうであるがゆえに社会主義世界は、①主要な生活資材が世界的に充足し、生活資材をめぐる争奪の根柢がおよそ消滅し、②全世界の全領域で「平等」が組織され、③武装した階級敵がすでになくなり、階級闘争が階級運動の主任務でなくなり、プロ独の暴力的側面が不用となる世界、として展望されなければならない。

第 一
には、
—国社会主義路線に抗する国際共
産主義の原則路線を確立することである。
それは、一国社会主義路線のもとで完全に放
棄された次の三つのレーニン主義原則、①全世



⑤ 米国のキャラバン隊を歓迎するオルテガ大統領(ニカラグア・88-7)

國際主義政治圖示をハノハ

スを入れ、この希望が勝利するための物質的条件と、この希望を実現する主体と、その希望がたどるべき不可避の過程を明らかにした。こうしてマルクス主義は共産主義の理論的基盤となつた。

現代のマルクス主義者によつてこそ共産主義が、現實に生きるプロレタリート、被抑圧人民の展望すべき新しい世界の希望として復権されねばならない。それは、一国社会主義路線との不可欠の闘争課題であり、プロレタリア大衆を革命的階級に高めあげていく階級形成戦にとつて不可欠の課題である。

国際主義政治闘争をつくる

国際主義プロレタリアートの建設にむけ、われわれは「反帝民族解放—社会主義革命連帶！日帝の侵略反革命戦争出動阻止」を掲げたプロレタリアートの国際主義政治闘争の巨大な前進を実現しなければならない。

国際主義政治闘争の建設は、反帝民族解放—社会主義革命をたたかいぬく第三世界人民に対する、帝国主義本国プロレタリアートである日

本プロレタリアートの重要な責務である。同時にそれは、侵略反革命戦争出動、一大排外主義攻撃とたたかい、日本革命勝利にむけた蜂起である。

のたたかいである。日本帝國主義はいま、米帝とならぶ國際帝国主義として本格的に全世界の人民の前に登場しようとしている。いまや日帝はアジアのみならず、ラテンアメリカ、アフリカなど全世界に侵出し、第三世界の労働者を低賃金と劣悪な労働条件でこき使い、超過利潤をしりとり取り、搾取と収奪を強めている。全世界における日帝の新植民地主義支配の強化は、不可避に第三世界の労働者人民の反抗を生み出している。第三世界の労働者人民が反日帝のスローガンを正面から掲げる時代が開始されようとしている。

おいて彼らは、新たな反革命盟主としての登場を急いでいる。国内では日帝は、大増税による軍拡財源の確保、有事立法制定・改憲策動など

をおし進め、侵略反革命戦争出動を急ピッチで準備している。

われわれはプロレタリア国際主義の責務にかけて、自國帝国主義・日帝の侵略戦争出動を阻止し、日帝打倒の水路を切り開くたたかいを断固として組織しなければならない。

第一の任務は、プロレタリアートの実践的な国際連帯を組織することである。

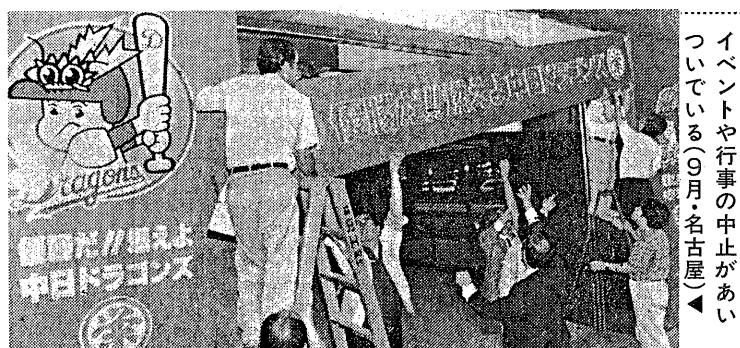
第三世界人民の激しい日帝批判・告発を受け止め、第三世界のたたかう労働者人民との実践的な連帯をかちとついくことは、日本の労働者人民が帝国主義的排外主義とたかぬくうえできわめて重要である。また、ソ連・中国など既成社会主義国が、自國の経済建設の利益のために世界の第三世界の革命運動への支援・連帯を放棄しているなかで、このたたかいは決定的に重大な意義をもっている。

第三の任務は、膨大な大衆を国際主義の道に組織するため、階級的労働運動を基盤とした大衆的労働者政治統一戦線を建設することである。

八九年秋、総評が解散し、新しい帝国主義ナショナルセンターが結成されるなかで、労働戦線の右翼再編はいつたん完了する。新しい帝国主義ナショナルセンターは、新たな産業報国会運動をその内部から開始し、日帝の侵略反革命戦争出動に労働者人民を動員していく役割を果



天皇制反対を掲げて開かれた反京都国体集会(10月)▲



大衆集会を！・街頭デモを！

Xデー攻撃に反撃せよ



台頭する排外主義

イベントや行事の中止があついている(9月・名古屋)▲

動家グループを、帝国主義ナショナルセンターの内外を貫いて結合させ、全国各地域・地方において大衆的労働者政治統一戦線を無数につくりださねばならない。そして、この大衆的政治統一戦線の内部に国際主義を持ち込み、帝国主義労働運動と対決する先進的労働者を大量に形成し、階級的労働運動の発展をかちとついていかなければならない。

われわれはいま政治闘争の大きな再編期を迎えており。このような時機をプロレタリアートの政治闘争を前進させるための好機に転化し、排外主義政治闘争と正面から対決する国際主義政治闘争の本格的組織化に着手していくことが必要となっている。

国際主義政治闘争は、労働者・学生・市民の

われわれの八九年は、社共にかわる前衛党へと大胆な飛躍を実現すべき年である。そして、みずから党派性をプロレタリア国際主義派として全階級戦線に刻印していくべき年である。労働組合指導、大衆的政治統一戦線指導から党の独自政治行動に至るまで、すべての党活動のなかにこの新たな党派性が貫かれねばならない。国際主義をもつて日本プロレタリアートの階級形成をおし進め、排外主義とともによくたたかぬく国際主義・プロレタリアートとして日本プロレタリアートを登場させねばならない。

全国のたたかう労働者・学生諸君！八九年、わが共産主義者同盟（全国委員会）とともにプロレタリア国際主義派の圧倒的前進をかちとろ

あらゆるたたかいのただなかからつくりだされなければならぬ。反戦反安保、反原発、反差別のたたかい、あるいは天皇Xデー攻撃とのたたかいなど、人民のあらゆる憤激の内部から国際主義を掲げた決起がつくりだされなければならない。

そして国際主義政治闘争の先頭に立つ、武装したしていくことはまちがいない。帝国主義労働運動派の安保容認・自衛隊容認はよく知られているところであるが、昨秋においては彼らは北方領土返還の現地集会をおこなうなど新規的動きを示し始めている。彼らは、労働者人民を侵略反革命戦争の道に動員していくための排外主義政治闘争の組織化をすさまじい勢いで推進していくだろう。これとの対決は日本労働者階級の死活をかけたたかいとなる。

たかいの内部に建設しなければならない。

学生共同闘争 かちとられる

12・14

一二月一四日、日本大学全文理連絡会議（銀ヘル）呼びかけの「ファシスト学生運動武装登場糾弾！一二・一四第八回学生共同闘争」が、明治大学駿河台校舎において、全国三二大学、一八〇名の結集をもっておこなわれた。

山谷争議団の連帯アピールに続いて

集会では、基調報告、日雇全協、



八九年の新春にあたりご挨拶申しあげます。八八年中は何かと皆さんには多大なる御協力をいただき、感謝の他あがうかがわれます。しかしながら、我々反対同盟は初期の目的達成のため、これに屈することなくあくまでもたたかい貫く所存であります。

参加各団体の決意表明があこなわれた。発言に立った同志社大学全学戦線の仲間は、「日帝は天皇Xデー状況下で、侵略反革命戦争出動に向けて、侵略有機的排外主義のもとへの国民統合をもくろんでいる。この攻撃にともなってファシズム勢力が台頭してきている。このよくなかで、日帝の反人民的政策に対する個別たたかいや、ファシズムに対する民主主義一般的なたたかいを対置するだ

りません。顧みて厚く御礼申し上げます。現地にあつては二期工事に対しいよいよ正念場中の正念場を迎えるに至り、様々な局面を迎えつつたたかいは勝利的に進んでおります。昨今においては収用委問題にあっては、知事の申し入れにより、国側での策動も特別立法等を思考している様子がうかがわれます。しかしながら、現行法以外の策を講じるにしても、我々反対同盟は初期の目的達成のため、これに屈することなくあくまでもたたかい貫く所存であります。

昨日は、みなさんもすでに知っていると思つけれども、千葉県の収用阻止するたたかいをつくりだしていくことは決定的に不十分である。求められているのは、何よりもプロレタリア国际主義を鮮明にした政治闘争の建設であり、今日の第三世界人民の反帝民族解放・社会主义革命に連帶し、日帝の侵略反革命軍事出動を阻止するたたかいをつくりだしていくことである」と訴えた。

集会後、権力・ファシストの敵対を一切はねのけ、靖国神社、日本本部へのデモがうちぬかれた。委員が全員辞任した。さらには今年の一月には事業認定の二〇年の期限が切れることになっている。公団はいまごろになって、用地内農民と話し合いたいというようなことを言ってきて、手紙もよこしたが、それは証文の出し遅れだ。公団がどんなにやってきても、我々の土地があるかぎり二期工事はできっこない。ターミナルビルの着工をしたと宣伝しているけれども、C滑走路のど真ん中に我々の土地がある。今まで公団や権力にいじめられてきたが、今までこちらが公団をいじめる番だ。

我々としては、戦後苦しみながら開拓してきた土地を、子孫永遠に伝えたい。あくまで土地を守るたたかいとして、また正義のたたかいとして、やはり日本のみなならず世界各国が正しいたたかいだということを認めていると考えている。

昨日は全国の皆さんの力により、木の根の風車もきれいに塗りかえら

反対同盟・代表

熱田 一



反対同盟・代表補佐

小川 源



月刊
烽火
一部 200円
(通常号)
たたかいの鮮明な指針を提起する政治新聞
取り扱い書店

烽火

たたかいの鮮明な指針を提起する政治新聞

烽火の定期購読をお願いします

○郵送(密封)一年分……三〇〇〇円
二年分……五〇〇〇円
(お申し込みは大阪戦旗社まで)

